

1 階自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1階)

事業所番号	2793100146		
法人名	株式会社ジャパンメディケアネット		
事業所名	グループホームつながり城北		
所在地	大阪府大阪市旭区赤川1-3-24		
自己評価作成日	令和2年12月10日	評価結果市町村受理日	令和3年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和2年12月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1人1人の思いや症状に合わせて対応を心がけています。入居者の症状や性格等の特性を理解し個別対応に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、同法人として大阪府下で4番目に設立されたグループホームで設立して3年目を迎える。JR最寄り駅から徒歩3分、前には道路を挟んで公園がある。法人理念では家族・地域とのつながりを重視し、利用者が孤立しないように豊かな人間関係を保ち、一人ひとりがその人らしさを発揮し「日々の生活を楽しむ」のコンセプトの下に家庭的なイメージを大切にしている。事業所独自の理念も掲げているが、3ユニットある各フロアの各階ではケア目標を「尊厳」「笑顔」「役割」として掲げている。各ユニットではイベントや研修も独自の計画を立てて運営している。コロナ禍の中では現在は中止となっているが、毎年家族と共にバス旅行に出かけて喜ばれている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) 基本面会禁止	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) これも中止です。	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) コロナ対策で禁止してる	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆様の尊厳を大切にします。	法人理念「慣れ親しんだ場所で、一人ひとりがその人らしさを発揮できるように支援、豊かな人間関係を保ち支え暮らしていけるように(入居者とのつながり、家族とのつながり、地域とのつながり)を大切にします。」の他、事業所の独自理念を掲げている。フロア毎に目標を掲げ玄関やフロアの目につきやすい場所に掲示しフロア会議時に確認しながら日々のケアにあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板や町内会等。今は活動していない	開設時から自治会に加入して回覧板で地域の行事を知り夏祭に参加していた。事業所でも「つながり地域夏祭り」を企画して小学校からテントを借りてもちつきや輪投げをして地域との交流に努めていたが現状はコロナ禍の中で中止されている。敷地内の畑作りではボランティアの力を借りて季節毎の野菜の収穫を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は夏祭りなど開催できましたがコロナ対策で中止に。市の持ちかけで畑を少ししています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在出来ていません。	以前は偶数月の第3木曜日に自治会長や地域包括支援センターの出席の下に行われていたが現在は行われていない。	案内状を出して運営推進会議の日程を関係者に伝え、早急に年6回の会議を実施して事業所の活動報告や行事報告等を行い、各方面からの意見を聞き取り、災害時には地域との協力体制が築かれること、議事録の家族送付がされることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	旭区役所の生活支援課の方と連携しています。	生活保護自給者が半数以上あり、市の生活支援課には関係書類の申請に訪れている。ケースワーカーの訪問を受け、介護保険課、保健福祉課には報告相談に訪れアドバイスを受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会等しています。	身体拘束の廃止に向けて委員会を立ち上げて指針を作り、年に2回は研修を行っている。管理者を中心にアンガーマネジメント研修も行われている。玄関、各ユニット間は安全のため施錠されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がないようアンガーマネジメントの研修をしたり随時指導しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人が必要な方に対して弁護士と相談して対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様や利用者によりわかりやすく説明しています。改定等は文書を添えて説明します。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お話を聞き、その都度対応している	家族に向けて毎月請求書と一緒に事業所のイベント時に写した写真を掲載したお便り、「つながり」を送って家族から喜ばれている。今後は担当職員が利用者の日頃の様子を知らせる一言メッセージを追加掲載の予定がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見はその都度聞いている。反映できることはしている。	法人から職員に向けて人事考課のアンケートを提出している。それを基に管理者が個人面談をして意見や提案、シフトの変更等の要望に答えている。月に一回はフロアごとに会議を行い利用者のカンファレンス、薬の変更や一人ひとりの対応に関して職員が共有してケアにあたっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	頑張る人を評価しています。各職員の頑張りに応じて適正に評価するようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育やスタッフへの指導などその都度行い勉強会などもしています。今はコロナで外部の研修は中止しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や食事会など以前は行きましたがコロナで中止です。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前アセスメントや面談などしながら関係づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談を随時行い希望を聞いたり不安が解消できるよう説明や助言等しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前アセスメントもしていますが、やはり来られてからの様子が重要なので、スタッフ間の情報共有をして対応しています。訪問歯科等必要ない場合は選べるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	声掛けをたくさして普段から話やすいように雰囲気を作りをしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今はコロナ対策で面会を全面的に禁止しているが、家族様の希望があればガラス越しの面会をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今は面会禁止なので電話くらいです。	入居時に一人ひとりアセスメントを行い馴染みの人や場所を把握してお墓参りや馴染みのお店に訪問している。産まれた土地のふるさと訪問、親族の葬式に出席した利用者もいたが、現在はコロナ禍の中、中止となっている。年賀状を出したり手紙の支援は行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がたくさん話しています。喧嘩になるときはスタッフが間に入るようになっています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから連絡することはないですが連絡がある際には誠意ある対応を心がけています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	要望を聞きそれに沿うように出来るだけしている。	入居前関係先訪問を行い、以前のケアマネ等から一人ひとりの契約に至るまでの基本情報を知り、初回アセスメントを作成している。その後は日々の生活の中で、しぐさや行動、動きなどを観察して行動パターンを探り、経過日誌に記録して職員と共に共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の情報を確認し、それをもと支援を組み立てています。往診の先生・訪問看護・薬局等連携しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調やADLに変化のある場合はその都度カンファレンスやフロア会議で対応を検討しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	要望やカンファレンスなど考慮に入れてフロア会議で決めている。	ケアプランは長期6ヶ月・短期3ヶ月・モニタリングは3ヶ月毎に行っている。状態変化時はその都度ケアプランを変更するため家族を含めて担当者会議を行っている。個別ケアに力を入れ、本人の希望を聞き自立支援・現状の維持に努めるプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の口答による申し送りや、ノート・ライン等の使用による情報共有と見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度検討対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園やスーパーでの買い物もしていましたが今は全面禁止です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師の往診を受けている。月に2回。	かかりつけ医の往診が月2回あり、専門医などの他科受診は家族が付き添っている。家族が困難な場合は職員が付き添って受診している。9割の希望者が週1回の歯科受診を受け、歯科衛生士の指導を職員が受け、口腔ケアを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護師と相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃から情報共有しています。都度相談助言等もらうようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や看取りのかかわる指針を書面で確認している。そういう状態になった時に再度看取りかどうか家族と本人が選べるようにしている。	入所時に看取り指針を説明し同意書を交わし状況・状態変化があった場合は、再度医師から本人家族に説明があり、再度同意書を交わしている。今までは重症化した場合は入院され看取り実績はないが、現在「看取りケア」の勉強会を行い書類などを整備し、看取りケアの体制を整備中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使用訓練、心肺蘇生法の訓練等しています。新人教育としても行います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等で勉強している。	大阪市旭区消防署の立ち会いの下に日中・夜間を想定した火災訓練を2月と12月の年2回行っている。12月の訓練では淀川が近く台風時の洪水を想定した訓練も行いエレベーターが動かないことを想定して利用者と共に階段を使って屋上まで避難している。備蓄は水、ランタン、カンパン、お菓子が3日分備品庫に保管されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念として挙げて気を付けている。	利用者の話をよく聴き動作や行動をよく観察している。その人の希望に沿った生活リズムを大切に支援・対応している。声かけは頻繁に行い柔らかい言葉で、人生の先輩として尊厳の気持ちを持ち接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望に対して検討し、可能な限り実現するようにしています。コロナ対策で外に出れないので中で出来ることを、工夫しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼寝する方、TV見る方、フロアや居室で、時にはソファでも、安全面に配慮対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選べる方は自由にしてもらいます。入浴時1週間に2回着替えあり。食べこぼし排泄等で汚れたらその都度更衣しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今は準備出来る入居者がいないが、おしほりを丸めてもらっている。	食材は業者から配達され職員が手作りしている。状態によりミキサー食が必要な方も見た目を重視し形を整えている。利用者が出来ることを継続して参加しており、洗い物やおやつ作り・ホットケーキ・お好み焼き・たこ焼きなども一緒に作っている。外食や回転寿司・外食レクレーション等コロナ禍であり中止しているが、コロッケ・ケーキなどのテイクアウトはしている。会話しながら食事介助見守りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は1日食事とおやつもあわせて200cc飲めるようにしています。食事は声掛けや食事形態の工夫、時には食事介助もしています。		
42		口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の口腔ケアと、週に1回の訪問歯科で対応。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立てる方は出来るだけトイレでの排泄をしています。体調に応じて無理をしないようにしています。	基本的にトイレでの排泄を支援している。自立の方は1割で、他の方はリハビリパンツやパッドを使用し、オムツ外し訓練中の利用者もいる。夜間巡視は2～3時間毎であるが、利用者により睡眠を妨げないように適宜対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人に合う便薬を調整し、水分を促したりトイレまで歩いたり工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めていて、お風呂と分かるようにしている。	利用者毎に個別に曜日を設定し覚えてもらい、入浴日の自覚を促し、週2回の間隔で日曜日には行っていない。季節により湯ゆず湯や菖蒲湯を行っている。入浴剤は本人の自由で使っている。お風呂嫌いはいないが介助者の希望を聞いて世間話等をしながら楽しく入浴している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る時間や眠剤、寝ているときな過ごし方排泄など一人一人に合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食事の時に服薬までこちらで管理しています。症状に合わせて時折先生と相談してお薬を変えたりしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションを工夫して出来ることをして頂いたり、付き添いで喫煙している方もいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今はコロナ対策で全面的に禁止している	外気浴・日光浴は玄関先で天候をみて毎日行う。公園や買い物にも行っていたが、現在はコロナ禍の中自粛している。駐車場と畑の所で1日3回喫煙する利用者がいる。現在、普段のような外出は困難のため、玄関横の大きな窓ガラス越しに、声も聞こえるため家族と面会してもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理出来る方にはして頂いてますがお預かりしてる方が多いです。買物もこちらで。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎしています。手紙については現在希望者がいないのでしていません。以前は弟さんがおられて、手紙を代筆して送っていました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調や居室掃除、トイレ掃除等快適な空間を提供	リビングや廊下をクリスマスらしく各階メリハリを効かせて飾られていた。いずれも職員と利用者が一緒に作成している。通路には転倒防止に留意しながら空気清浄機や加湿器が設置されている。季節感がある壁飾りや写真が光の当たり具合を配慮しながら貼られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に動ける人は出たり入ったり、仲良しの方や、中悪い方のバランスも考え時折席替え等もしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本寝具などは施設にあるのでTVやタンス・仏壇など自宅から持ち込んでいる。	エアコン、カーテン、洗面所の設備があり、自宅から持参のものを飾り自分らしく居心地よく過ごせる配慮がなされている。掃除や衣類の整理整頓は居室担当者が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別対応しています。それぞれの認知症について症状に対策しています。		